

▽低分子医薬
新規細胞分裂阻害 細胞分化誘導 新規作用機序 がん増殖シグナル阻害 血管新生抑制
▽免疫療法
DNAワクチン モノクローナル抗体 ワクチンアジュバント
▽支持療法
がん治療の支持療法 がんに伴う症状の緩和

沢井製薬子会社で後発医薬品の製造販売を手がけるメディサ新薬(大阪)岩佐孝社長は十六日、福岡県飯塚市の九州工場増設工事の完成式

典を開いた。四月に処方せん様式が変更され、需が拡大しつつあることに対応。生産能力の倍増も視野に入れる。延べ床面積は二・四倍

の一万五千三百平方メートルに拡大した。年間生産能力はほぼフル生産だった二〇〇七年度実績に比べ錠剤で四割増の十億錠、カプセル剤で三割増の七千

設計画が早まるようになつてほしい」と後発薬市場の拡大に期待感を示した。沢井製薬の沢井弘行社長も「グループの生産能力に余裕が生じ、供給面や品質面で安定性を高

予防医療NPOに寄付 万有製薬は発展途上国で子供の予防医療を支援する非営利組織(NPO)、世界の子どもにもワクチンを日本委員会(東京・千代田)にボリオワクチン二万四千入分の相当額を寄付した。予防接種が未整備な国のワ

は心と体のヘルスケアに關する市民活動や研究を対象に助成先を募集する。一件あたり三百万円で十五件ほど助成する。募集期間は六月二十六日、二〇〇九年九月に始め、今回が八回目。これまで延べ八百八十一件に助成した。

ニムラ・ジェネティク・ソリューションズ(東京都品川区)はマレーシアで未知の生物資源を探索するバイオベンチャー。熱帯雨林に分け入り菌類や微生物を採取・分析する地道な事業が成果を上げ始めた。ユニークな探索手法と合法的な開発体制を持つニムラに、国内外の製薬や化学の大手企業も熱い視線を向けている。

バイオ これで攻める

ニムラ・ジェネティク・ソリューションズ

ニムラ・ジェネティク・ソリューションズの概要

▽本社所在地	東京都品川区大崎1-19-10
設立	2000年6月
▽資本金	4億2000万円
▽従業員	14人
▽事業内容	生物資源からの有効物質探索

雨林に加え、標高四千級のキナバル山や起伏に



マレーシアに昨年開設した新研究所(クアラランプール郊外)

る。現地住民からそれを生活の場でどう使っているかなども聞き取り調査する。菌類は色や形状が異なっても遺伝子レベルでは同じ例もあり、見極める力が必須

る。現地住民からそれを生活の場でどう使っているかなども聞き取り調査する。菌類は色や形状が異なっても遺伝子レベルでは同じ例もあり、見極める力が必須

が、近年はオーダーメイド型で相手の要望に応じた物質探索も手がける。抽出した物質が新薬などに結実するには時間もかかるが、共同開発契約を結ぶ第一三共は成分サンプルの提供を受け、新薬研究を進める。三井化学も微生物を活用したバイオアルコールなどの新素材開発を目指す。

を得ている。政府機関のマレーシア森林研究所をはじめ、各州の公社や公的研究機関と共同研究で契約してきた。今年一月には同国で優れたバイオ企業に授与される「バイオネクサステータス」も取得。法人税の十年間免除、研究者の入国ビザ無条件交付といった優遇措置を得ている。

マレーシアで菌類探索

富んだ海岸線もある。これまで手がけていない。元軍人の現地スタッフの高山性生物や海洋資源などの開発にも道筋を付けた。

社が模倣するのは難しい。元軍人の現地スタッフの二十五人は理

要になる。現地の研究子に進んできた。「提携企業ハウ蓄積は「生物多様性条約」が一九九二年に策定され、マレーシアを含む百九十九カ国が締結している。

二村社長は描く夢は「世界生物資源メジャー」。十九日にドイツ・ボンで締結国会議に向き、熱帯地域の政府関係者に研究実績をアピールする予定だ。(林さや香)

二村社長は満足げだ。マレーシアは国土の大部分にある国立サバ大学と提携し、共同で資源開発に取り組むことが決まった。すでにマレー半島でも

な物質をより分けてい生物研究の専門家らが技術